

旧加悦町役場庁舎

令和の大修理

人々の交流が生まれる場として
未来へつづくことを願って





旧加悦町役場庁舎

京都府指定有形文化財

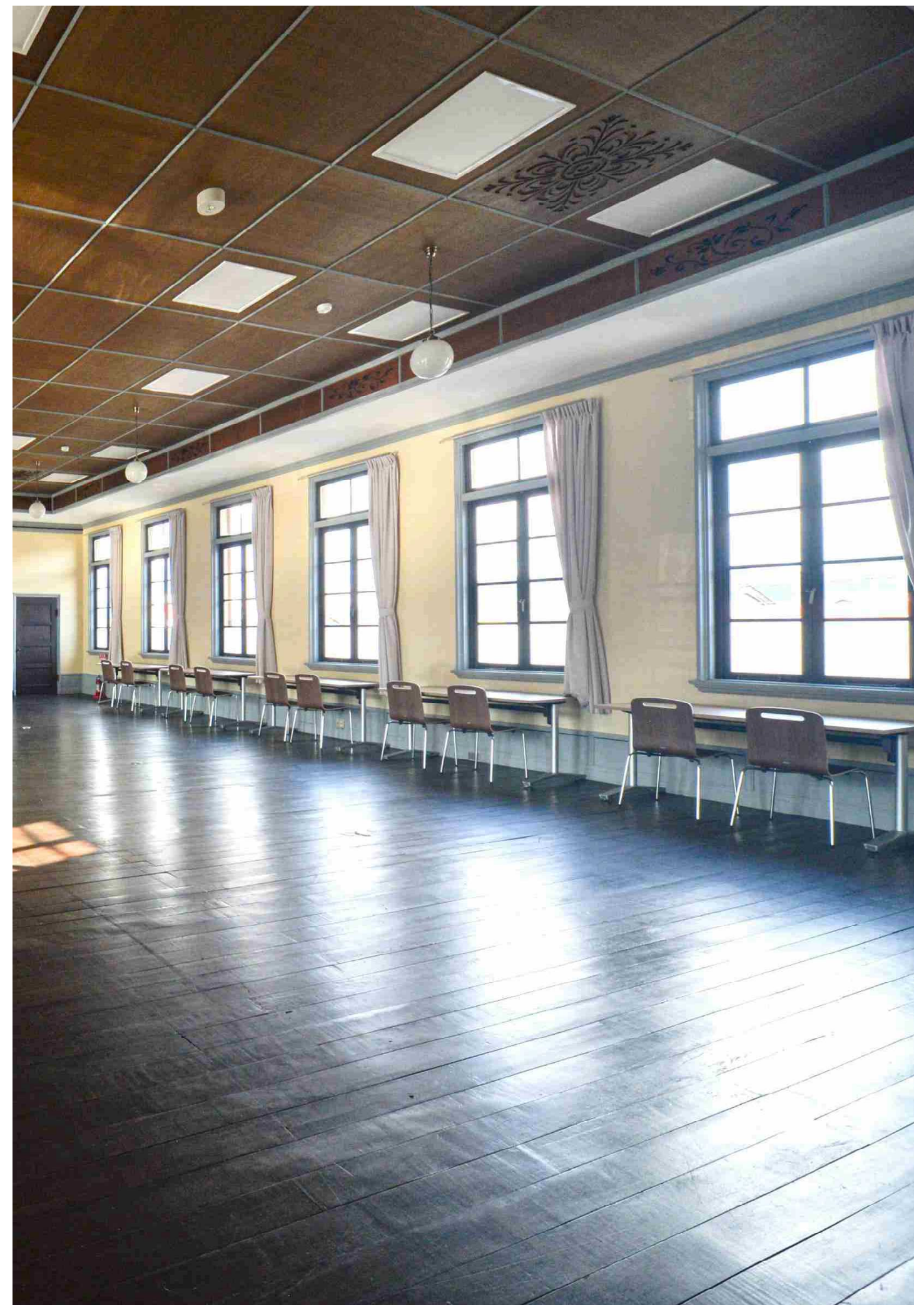
旧加悦町役場庁舎は、それまで役場庁舎として使われていた建物が、1927年3月の北丹後地震M7.3で倒壊したため、同じ場所に建て直されたものです。最初の町会議事堂建設計画が見直され、役場庁舎と町会議事堂の機能を合わせ持つ、現在の旧庁舎が建築されました。

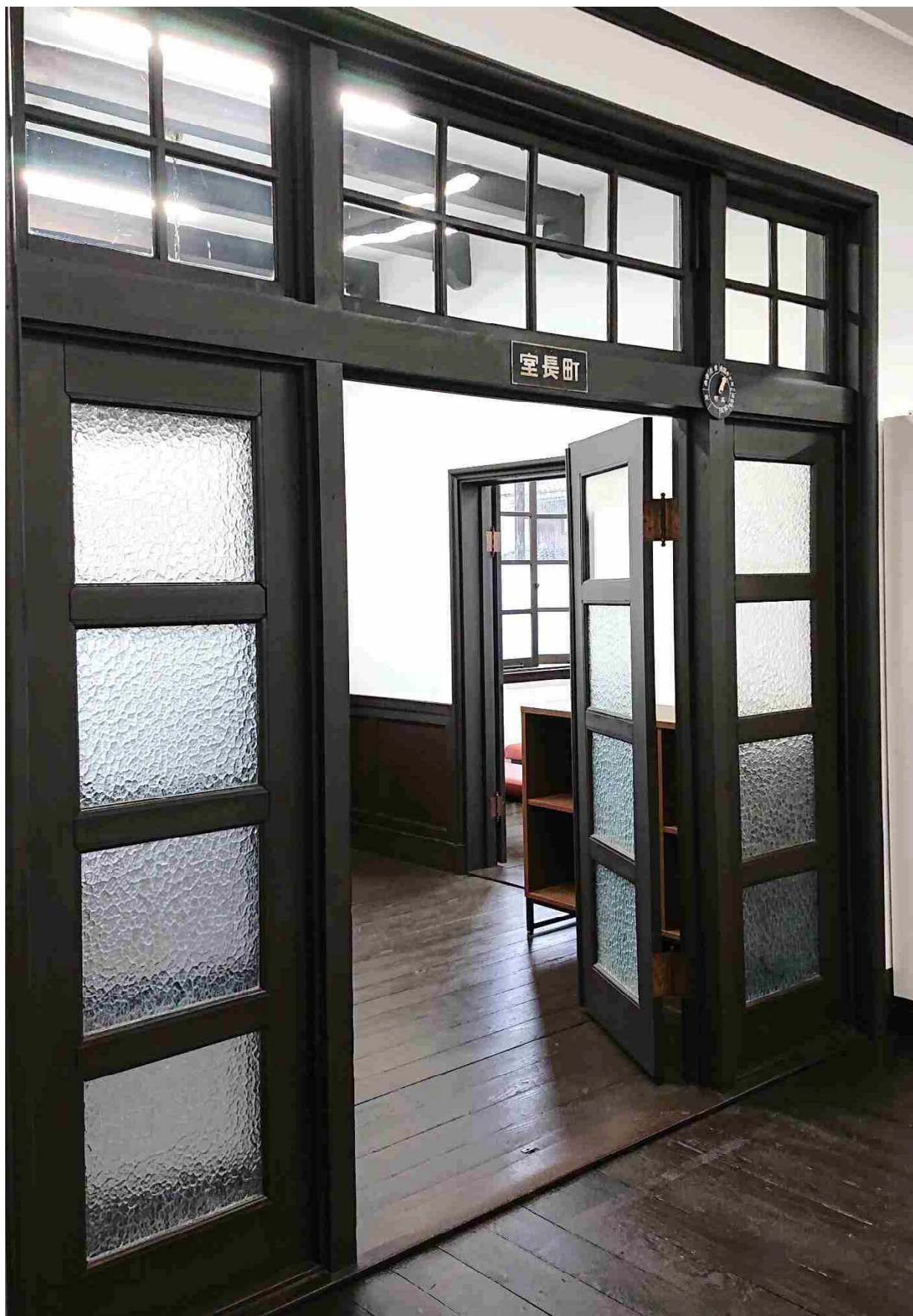
建築から長い年月が経ち、床下部分の腐朽と蟻害、耐震性能の課題から、2002年以降は1階しか使えない状況でした。このような中、活用を望む住民の方々の声を受け、令和の大修理を終え、2020年、約90年前の建物が息を吹きかえました。人々の交流が生まれる場として、未来へつづくことを願っています。



2階旧議場

格緑天井に大津壁（クリーム色の漆喰壁）、旧議場に通じる扉、屋外に接する窓を、1929年の建築時のものに復原し、当時の雰囲気再現されました





1 階旧町長室

腰板を張り、天井には飾梁を掛け渡し、腰板の笠木と飾梁、框の化粧材を統一するなど、特別な室であることが表現されています。室名プレートも当時のものです



1931年頃の旧加悦町役場庁舎

旧加悦町役場庁舎

建築概要

- ・ 建築年月日 1929年 7 月20日
- ・ 敷地面積 2,509.87㎡
- ・ 構造 木造総 2 階建て
- ・ 建築面積 275.47㎡
- ・ 延床面積 532.20㎡
- ・ 軒高さ 8.484m
- ・ 最高高さ 12.914m

設計者は宮津市出身で、現在の大林組の初代設計部長として活躍された今林彦太郎氏です。

スパニッシュ・ミッション様式の赤瓦屋根やクリーム色の外壁左右対称の外観が特徴です



2 階が議場として使われていた時のようす。この古写真が見つかり、文化財修理として格縁天井を復原することができました



検討委員会前に現地確認をされる委員



2018年4月の地盤調査



市内から山本勝己氏（京の左官匠）も来訪



公立鳥取環境大学で再現土壁を用いた振動実験

修理までの道のり

■計画を阻んだ安全性

1929年の建築から、最初の大規模な修理計画がなされたのは2003年でした。翌年、町と丹後土木事務所、消防署など関係機関で協議がなされました。しかし、「構造上の安全性が確認できない」の理由により、工事に至ることはできず、1階しか使えなくなりました。

■活用したい

2014年の住民参加型会議で、「ちりめん街道（与謝野町加悦伝統的建造物群保存地区）は、町の資源であり、特に旧庁舎は街道内の要となる建物なので、建物全体を活用したい」という声が上がりました。ただ、活用内容が決まらず、この時も計画が中断しました。

■進行する腐朽と蟻害

修理計画が滞っている間にも、床下（基礎部分）の腐朽と蟻害は進行していました。基礎部分の老朽は著しい上、悪化もしていたため、2015年に予備調査を実施しました。これが、事業が大きく動き出す足掛かりとなりました。

■突破口を求めて

貴重な文化財建造物である旧加悦町役場庁舎の歴史的、構造的、意匠的な価値を損なわない修理と耐震補強には、課題が山積みでした。全国的にも稀な事業のため、進行は手探り状態でした。岐阜県中津川市や岡山県倉敷市へ視察にも行き、事業遂行のための組織づくりや進行方法などを教わりました。

■専門委員会の設立

2018年1月、「旧加悦町役場庁舎耐震改修検討委員会」を立ち上げました。構成員は、14人の専門家と地域住民の代表者です。建築史・意匠、耐震工学、建築構造・材料、木質科学など、関連する分野の各専門家に集結いただき、大勢の方々のご協力を得ました。

■積み重ねる調査と協議

2018年3月、3日間の合同調査を実施しました。延べ80人の大規模な調査で、7月にも同規模の調査を実施しました。この他、専門部会ごとの調査も実施し、これらの調査で得られた情報をもとに実験や協議を重ねました。

■耐震補強・修理の方法が決定

2018年12月、耐震改修検討委員会からの提案をもとに、耐震補強・改修の方法を決定しました。そして、構造の安全性について、第3者機関の審査を受け、京都府建築審査会の承認を得て2019年2月、工事を進められる段階に至りました。

■多方面からの支援

2019年8月から本格的な工事となり、2020年3月に竣工しました。工事にあたり、耐震改修検討委員会の他、当町伝統的建造物群保存地区保存審議会、文化庁、京都府、よさの作事組など、多くの方々にご指導いただきました。

調査 → 協議 → 調査 → . . .

2018年3月の合同調査から、調査・実験と協議を積み重ねました

■予測を超えた発見も

簡素な平面・立面構成の木造総2階建て、外壁モルタル塗りのため、モルタル壁の強度と壁体内の木材の状態が調査の焦点でした。経年によるモルタル壁強度の著しい低下と木材の広範囲に及ぶ腐朽が確認できれば、工費と作業量が大きく跳ね上がるからです。

調査の結果、建築当初の施工者の工夫により、最悪の事態を免れたことが分かりました。モルタルに珪藻土を混ぜ、柔らかさを加えたことで、ひび割れが少なく、一定の耐力も保つ効果につながりました。また、内壁と外壁との間に設けられた空間に、空気の流れが生じ、木材の腐朽を防いでいました。



見過ごすほどの細かな意匠が各部の造作に充実している特徴も明らかになりました



金沢工業大学での実物大実験。モルタルの外壁を再現し、地震力相当の力を加えました



非破壊検査手法のシュミットハンマーを用い、基礎や外壁の圧縮強度を計測しました



耐震改修検討委員会。調査結果を持ち寄り、次の対策や補強方法を協議しました



内壁調査。土壁がどのような仕様となっているか、一部を剥がして調査しました



木材調査。金づちで木部に軽い衝撃を与え、伝搬速度から強度等を推測しました



目視による外壁の調査。ひび割れの位置、長さ、深さを計測しました



検討委員会には、地域住民の方々にも、各団体を代表して委員をお世話になりました



加振実験。機械だけでなく人力でも、リズムに合わせて建物に力を加えました



既存基礎コンクリートの状態を調べるため、一部を切り出しました（コア抜き）



コア抜きした基礎コンクリート。無筋で、大きな石が混じるものもありました



文化財建造物のため、調査であっても、壁をはつる位置や大きさを熟考しました



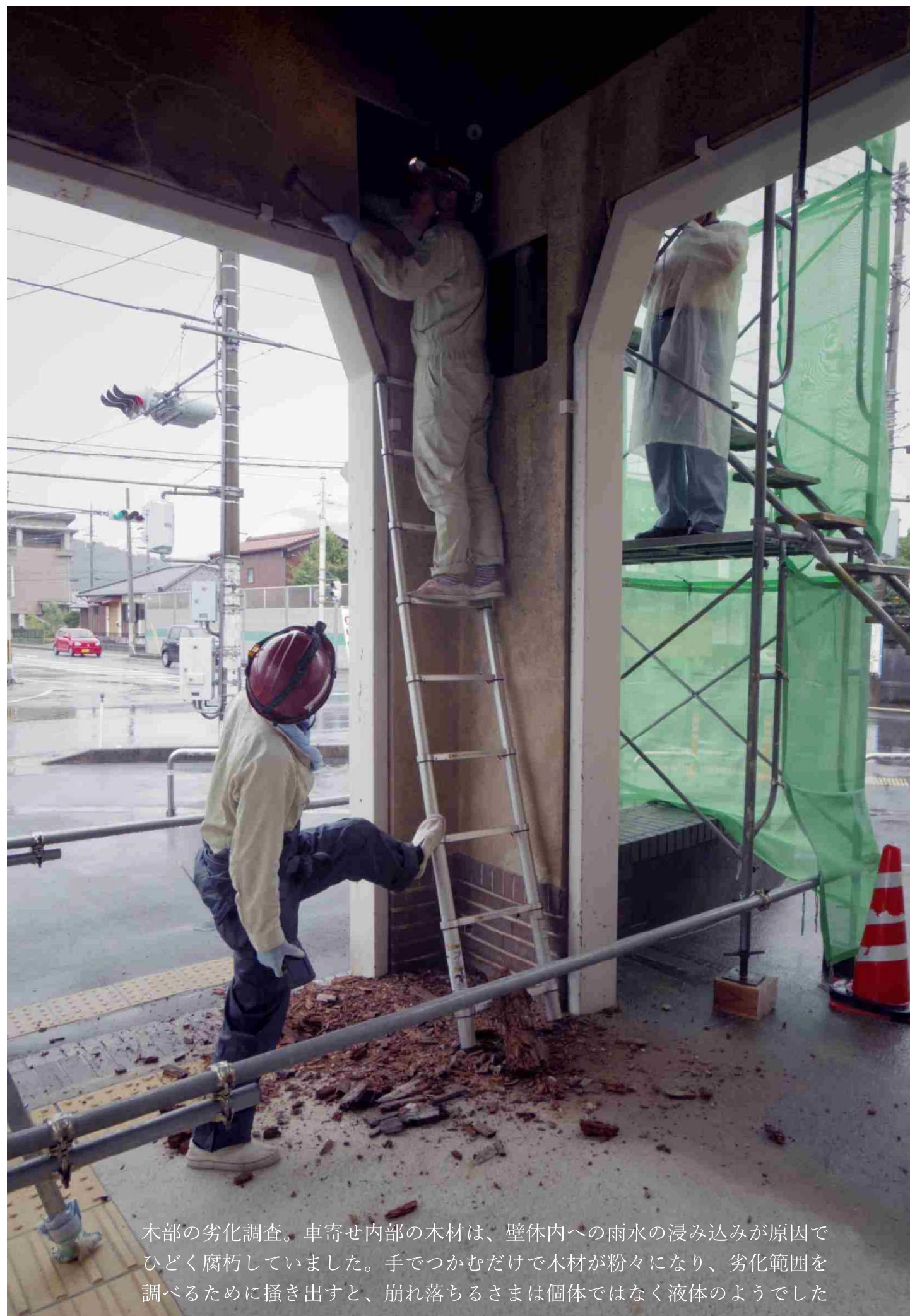
既存基礎コンクリートを切り出し、金沢工業大学で、実物を用いた実験も行いました



金沢工業大学での実物大実験。主要な接合部を再現し、どういう破損をするか調べました



実験結果（試験体）を前に基礎の補強に用いるコンクリートの仕様を協議しました



上／2018年7月の第2回耐震改修検討委員会のようす。この日から3日間、大規模な合同調査も実施しました 下／2018年6月の構造詳細調査のようす。2階の梁と1階の方杖との接合方法を確認しているところです



上／2018年10月、金沢工業大学で、接合部の実物大の試験体を用いて実験をするようす 下／2018年7月、地震の振動数の違いによる、建物の揺れやすさなどを調査するようす。40度近い猛暑日が続く中、1日がかりの計測となりました



2019年10月、現場見学会のようす。京都府立宮津高等学校建築科が、旧加悦町役場庁舎の構造模型を製作されるため、工事現場の見学会を開催しました
※2020年4月から「京都府立宮津高等学校・京都府立宮津天橋高等学校」になりました



2階西側の真っ直ぐに伸びる廊下。写真に映える場所です

保存活用改修工事

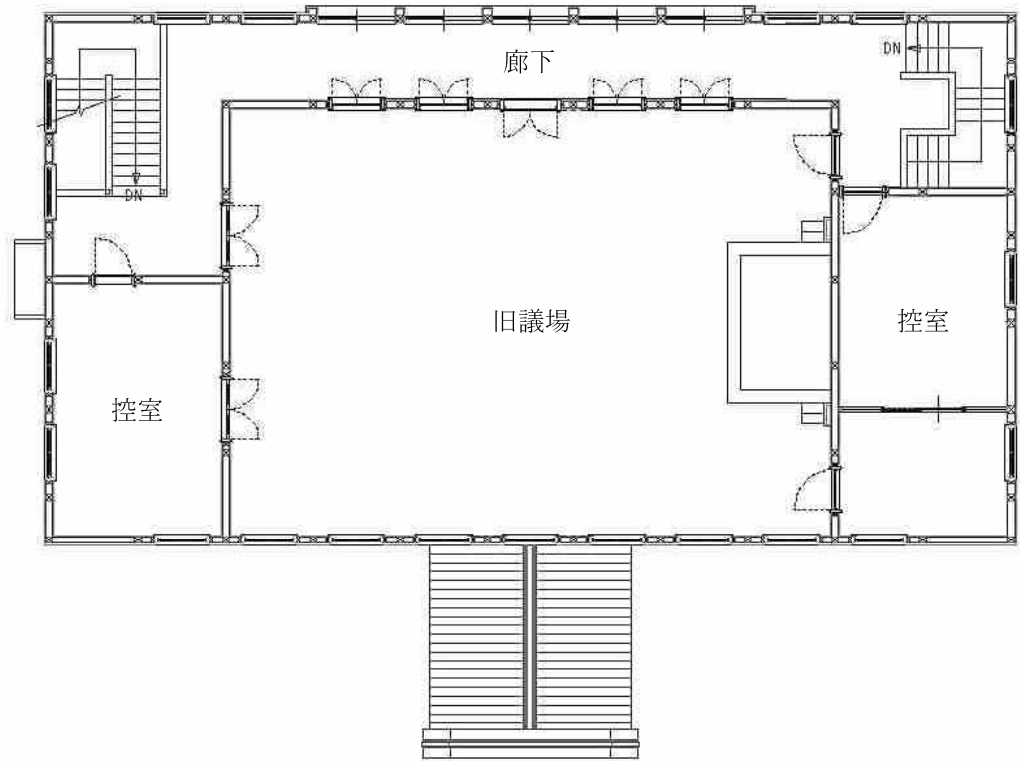
工事概要

保存修理と復原、耐震補強の主に3つの工事を行いました。なお、文化財建造物の工事では、復原と耐震補強は、現状変更になります。

保存修理は規模の大きな根本修理に該当し、柱や梁など主要構造部にまで及んだ破損を部分的に解体して修理し、健全な状態に回復させました。復原は、修理のひとつですが、古写真や図面等の根拠となる資料が必須で、建造物の歴史を考慮し、当時の仕様に復しました。

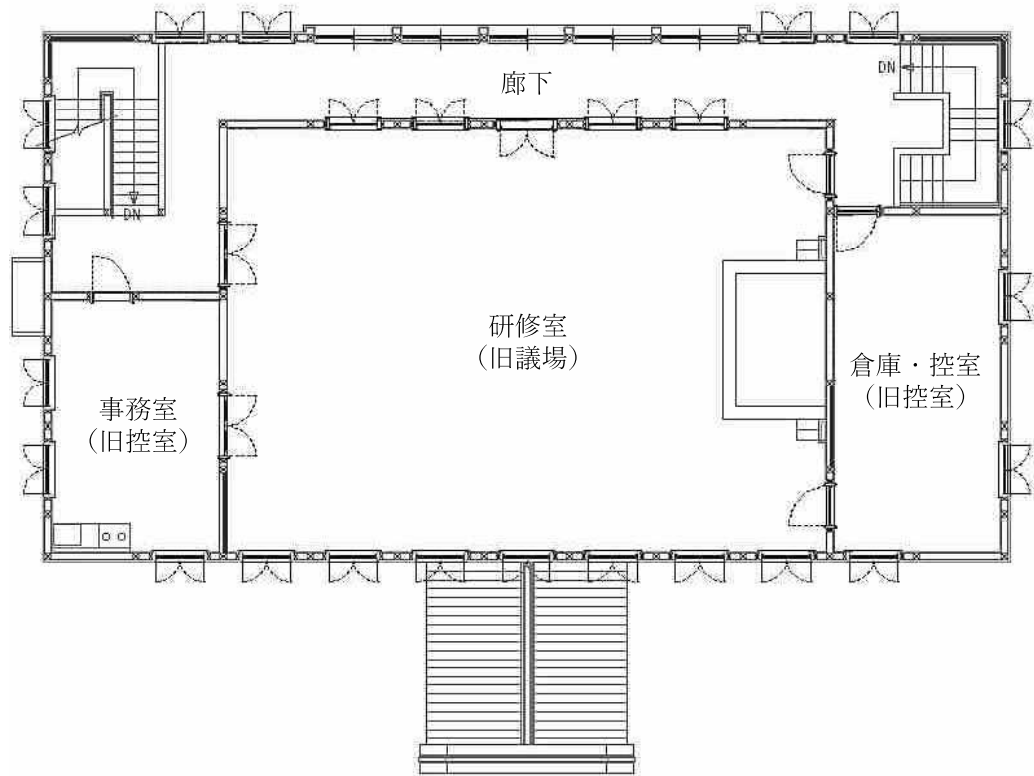
今回、修理で健全な状態にするだけでは、耐震性能に問題があることが、調査で明らかになり、耐震補強工事も行いました。ただし、補強方法は、文化財の価値を損なわず、伝統的な構法の構造特性に適した方法を採用しました。

修理前

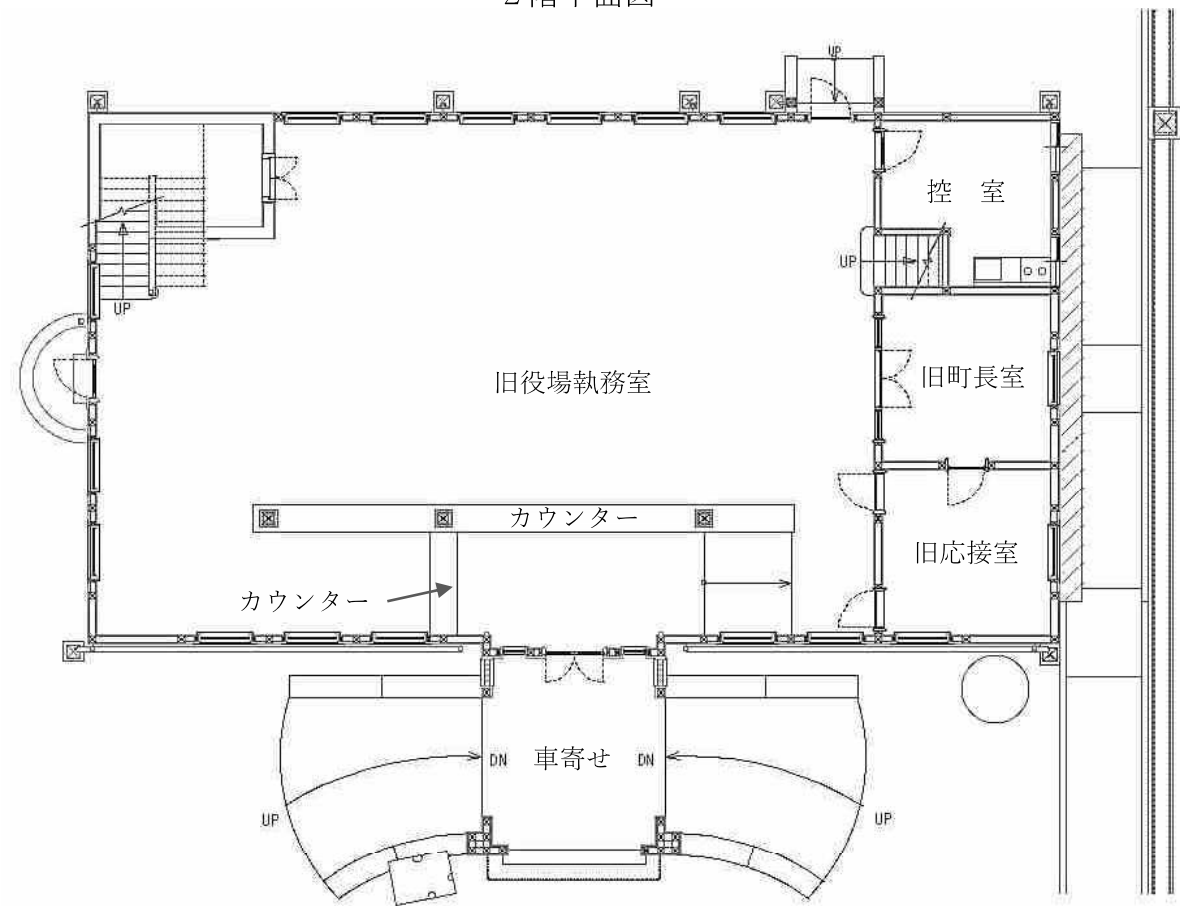


2 階平面図

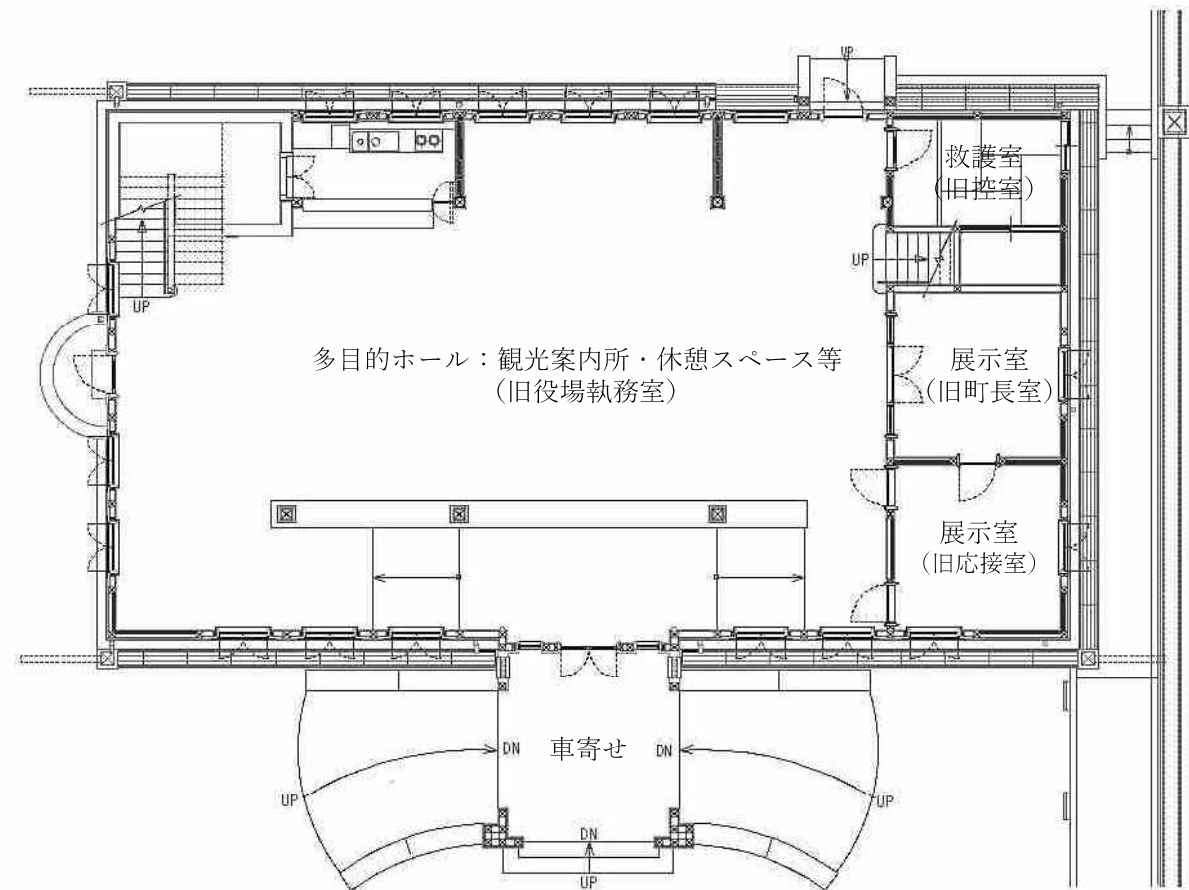
修理後（耐震補強含む）



2 階平面図

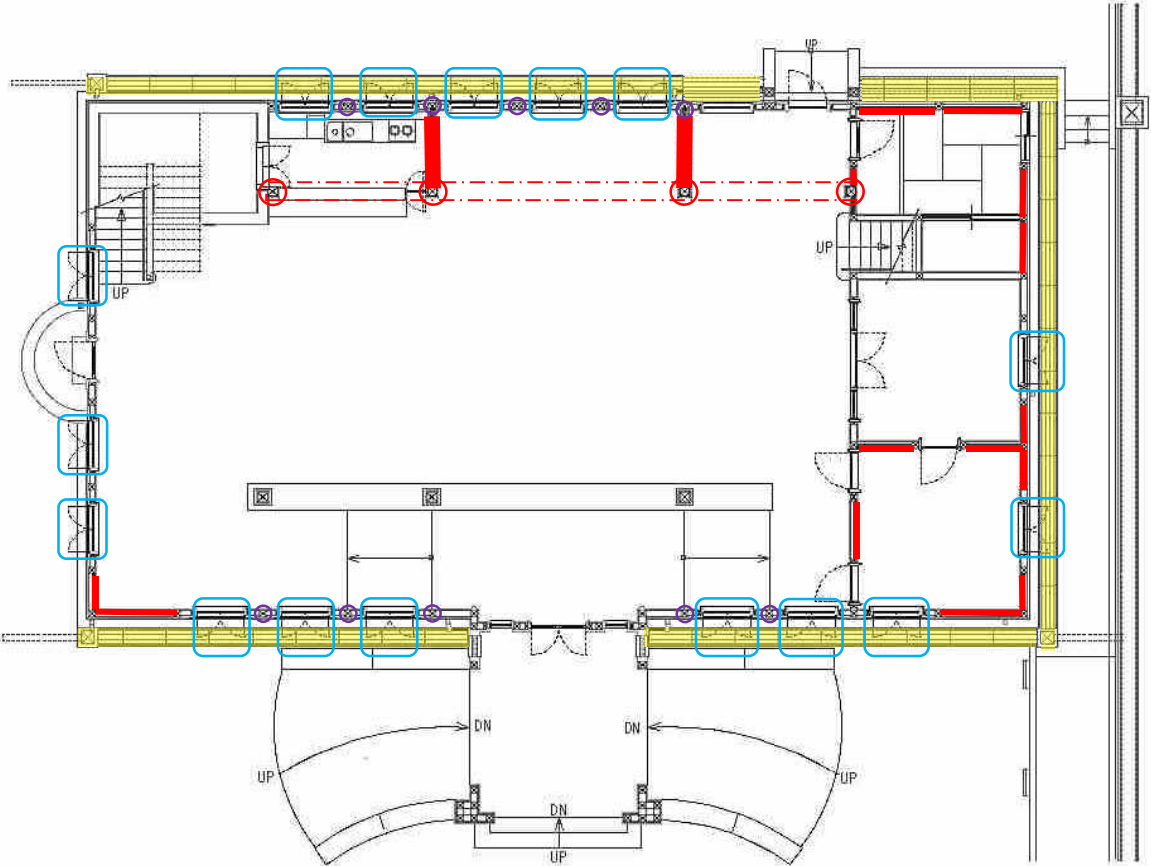


1 階平面図



1 階平面図

修理後（耐震補強含む）



1 階平面図

工事内容

■保存修理

- ・腐朽や蟻害で損傷が著しい木部の修理（主に、床下部分と北西角、車寄せ）

■復原

- ・屋外に接する窓で、上げ下げ窓に変更されていたものを外側への両開き窓に復原 

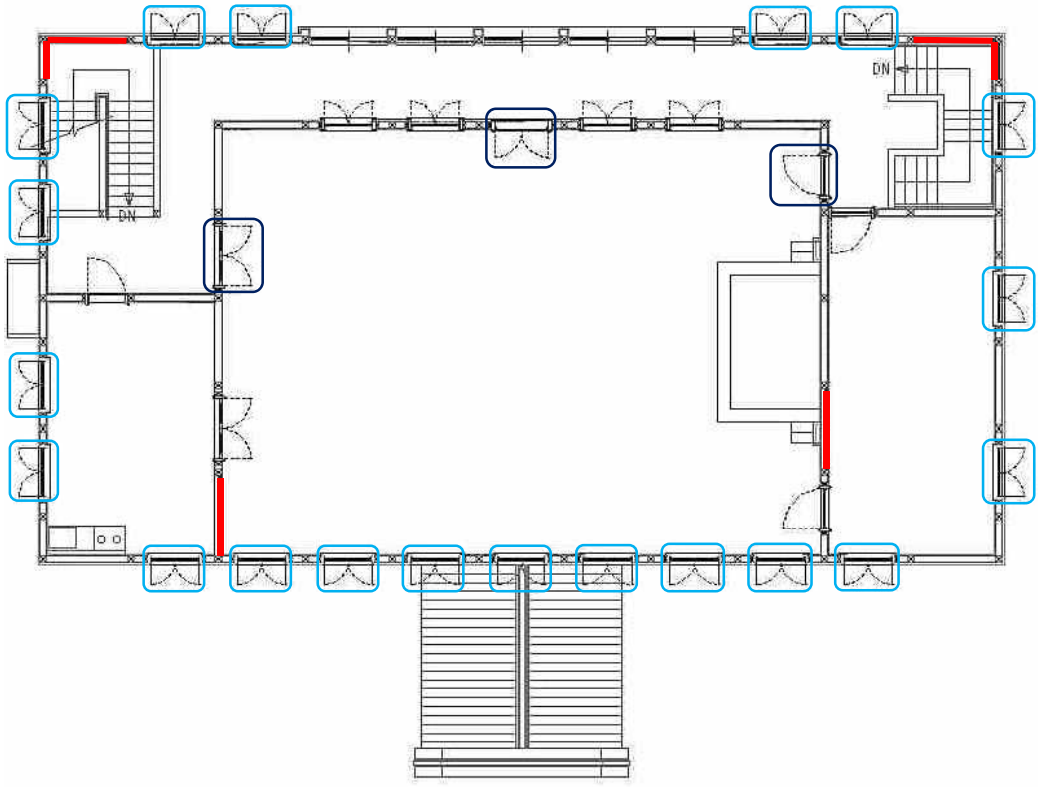
■耐震補強

- ・1 階西側に鉄骨梁 1 本を新設 
- ・1 階西側に柱 4 本を新設 
- ・1 階新設柱部分に袖壁を新設 
- ・1 階方杖の付く柱を、添え柱で両側から補強 
- ・内壁の一部に乾式土壁パネルを新設 

■整備

- ・受付カウンター（当初の設置ではない部分）を撤去
- ・撤去したカウンター位置にスロープを設置
- ・安全確保のため南北の階段に手すりを新設
- ・床下への雨水侵入の防止と床下換気を図るためスロープを撤去し側溝を配置 

▶ N



2 階平面図

工事内容

■復原

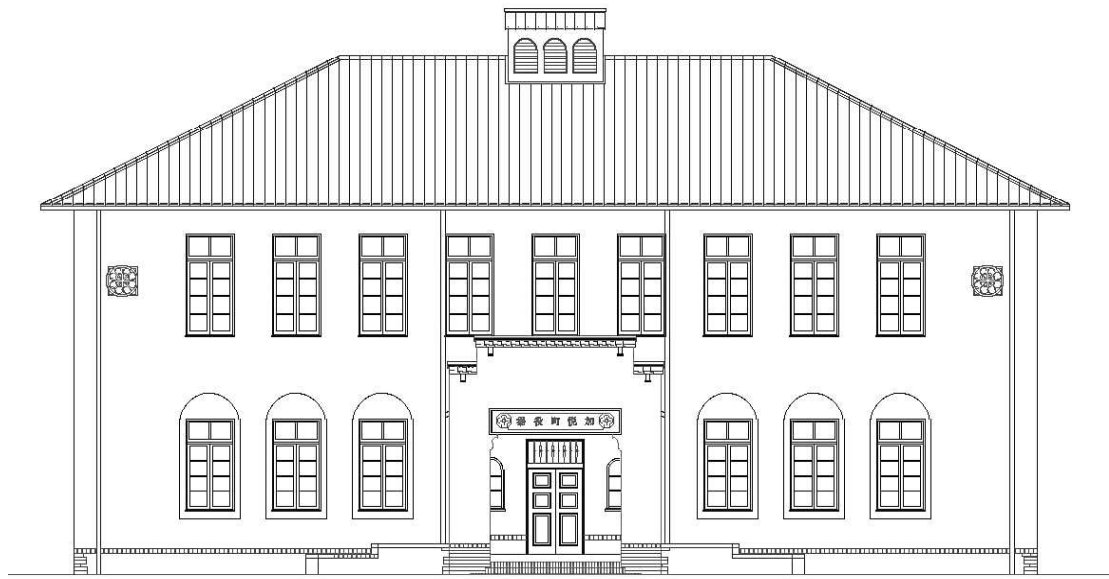
- ・屋外に接する窓で、上げ下げ窓に変更されていたものを外側への両開き窓に復原 
- ・屋内の建具を旧状に復原 
- ・古写真と現場に残っていた痕跡を根拠に、旧議場の天井を格縁天井に復原
- ・旧議場の室内側の内壁を大津壁に復原
- ・北側控室の間仕切り（当初の設置ではない）を撤去

■耐震補強

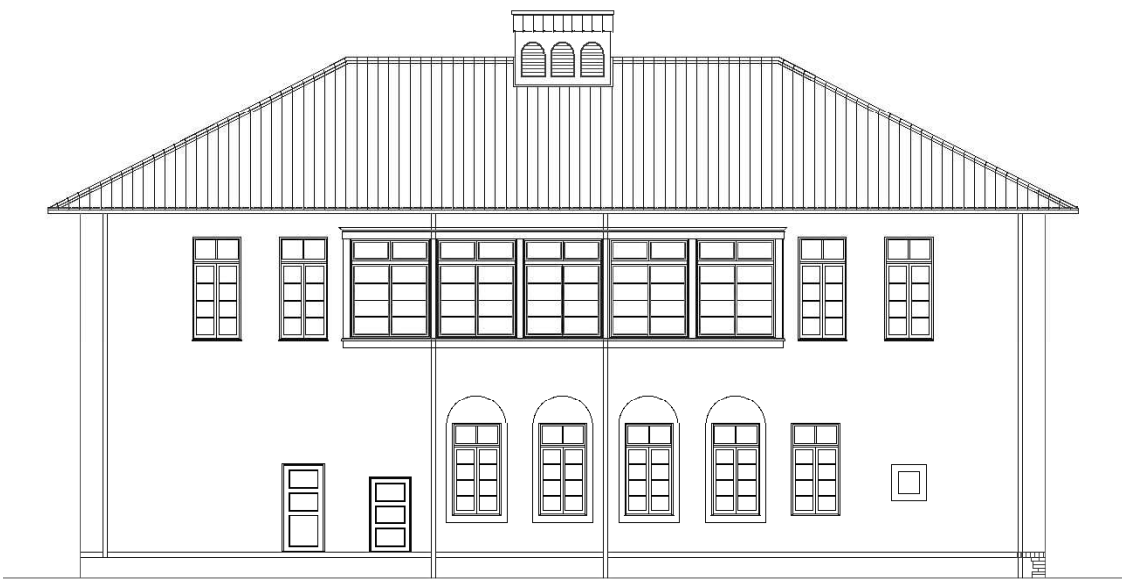
- ・内壁の一部に乾式土壁パネルを新設 

■整備

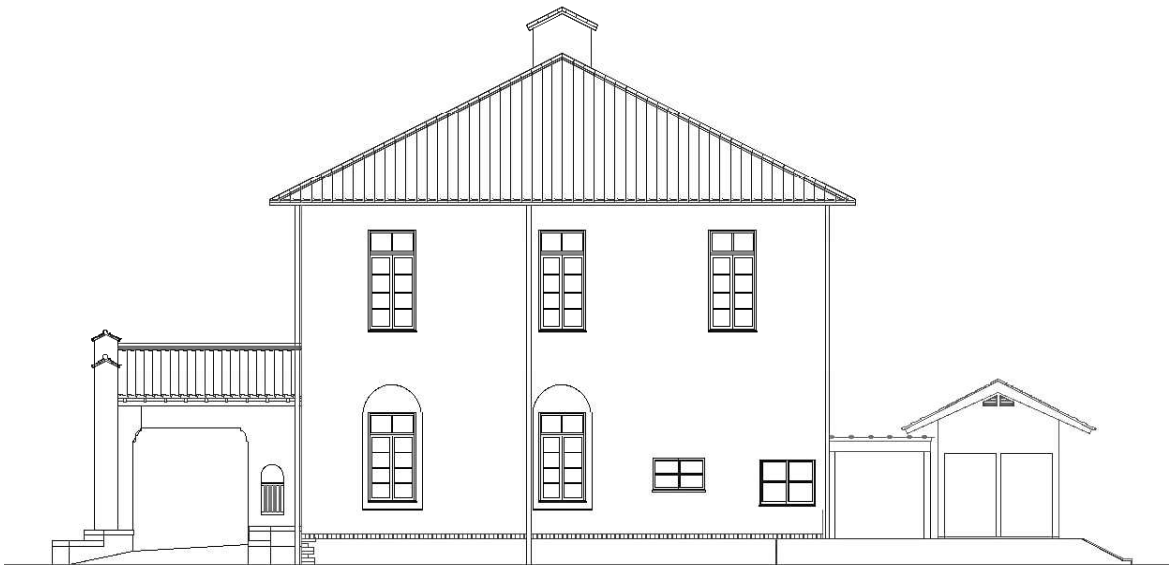
- ・安全確保のため南北の階段に手すりを新設



東立面图



西立面图



北立面图



南立面图

・コーキング補修

建具と壁面との隙間からの
雨水侵入を防ぐため、建具
周囲を目地材で充填

・復原（屋外に接する窓）

上げ下げ窓に変更されていたもの
を外側への両開き窓に復原



東立面図

・外壁のひび割れ修理

幅1 mm以上のひび割れ
部分に樹脂を注入

・雨樋の修理

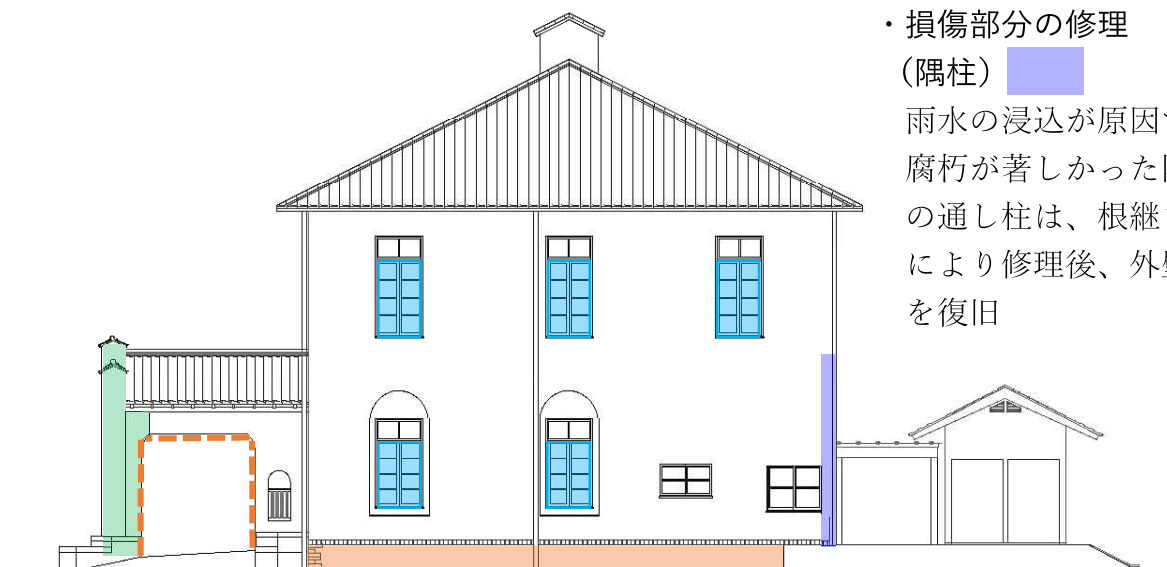
経年により損傷した部分
を取り替え



西立面図

・損傷部分の修理（正面玄関の車寄せ）

壁内部への雨水の侵入が原因で損傷が著しかった車寄せ。腐って消失
していた柱と梁などを新しい材に取り替え後、外壁を復旧。修理にあ
たり、車寄せの瓦は一時撤去し、修理後に瓦を葺き直し。大棟と追い
止め瓦の再利用はできなかったため、新しい瓦で葺き替え



北立面図

・損傷部分の修理
（隅柱）

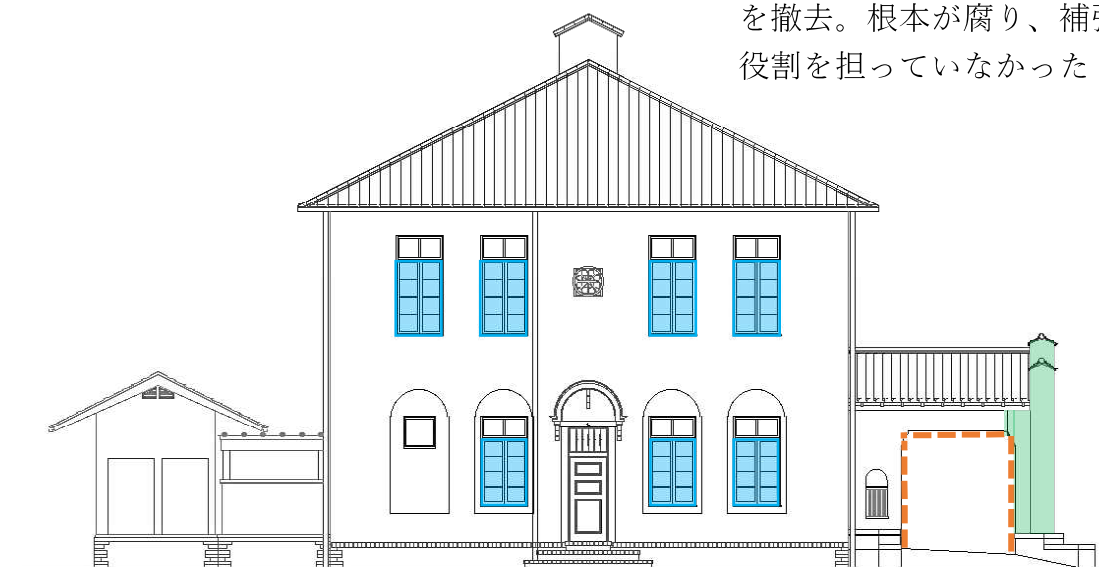
雨水の浸込が原因で
腐朽が著しかった隅
の通し柱は、根継ぎ
により修理後、外壁
を復旧

・損傷部分の修理

スロープや土間からの雨水の浸込が原因
で、腐朽が著しかった北西角。隅の通し
柱は、根継ぎにより修理。付近の腐朽が
著しい軸組部材は、新しい材に取り替え
後、外壁を復旧

・仮設鉄骨フレームの撤去

車寄せの補強を目的に仮設で
設けられていた鉄骨フレーム
を撤去。根本が腐り、補強の
役割を担っていなかった



南立面図

・スロープの撤去

2006年に設置されたスロープは、床下換気を妨げていたため
撤去して外壁を修復

工事に手間を要する文化財修理

健全な状態の既存箇所に損傷を与えないよう、細心の注意を払いました



2019年8月、解体工事が始まりました。床板には、全て番号を付け、元の位置に戻すまで、別の場所で一時保管しました



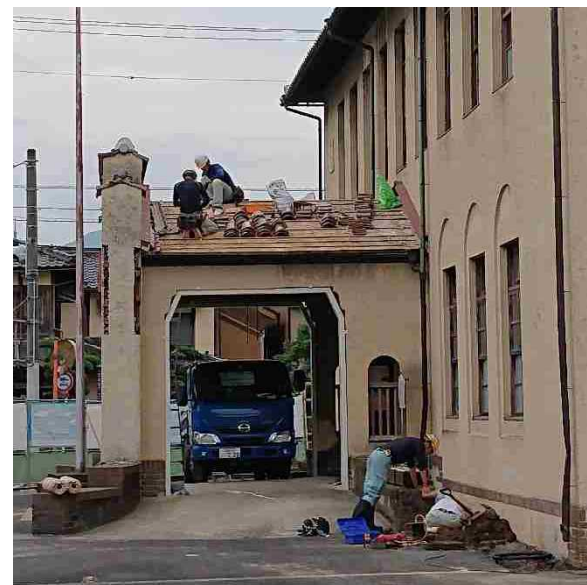
基礎コンクリートの打設前、土壌の白蟻対策を行いました。機械が入らない場所の掘削は、人力での作業となりました



今回の工事で、基礎コンクリートを増設しました。既存の基礎コンクリートを支えるためと、湿気・白蟻対策のためです



耐震補強のために新設する鉄骨梁を支える柱を据え付けるところ。1階西側に全部で4本の独立柱を新たに設けました



雨漏りも確認された玄関車寄せ。文化財建造物の修理工事で、部材の再利用が基本のため、瓦も丁寧に取り外しました



南西角には、建築当初に設けられたコンクリート造の金庫があります。耐震診断時に、この部分の偏心率も検討しました



屋外から床下に流れ込む雨水・雪解け水で、床下部分の腐朽と蟻害が甚大でした。防止策として、外周に側溝を設けました



修理工事でクレーンが使えず、鉄骨梁は切断し、人力で運び込みと設置を行いました。最大約400kgの重量がありました

震災からの復興という強い願い

一見、シンプルな建造物ですが、熟考の上に建てられていました



耐震補強の鉄骨梁を新設するところ。人力による作業で、手に汗握る工程でした。搬入から設置まで丸2日間を要しました



2階北側居室。当初は砂擦壁、棹縁天井、畳敷きの和室。耐震補強後、改修時の新建材は砂擦壁の養生材として残しました



一旦外した瓦は、汚れを落とし、傷み具合を確認後、葺き直しました。再利用できない瓦のみ新しいものに替えました



現存する当初の天井板。ペニアと呼ばれた単板で、装飾がある4枚のみ残っていました。補修後に、もとの位置に戻しました



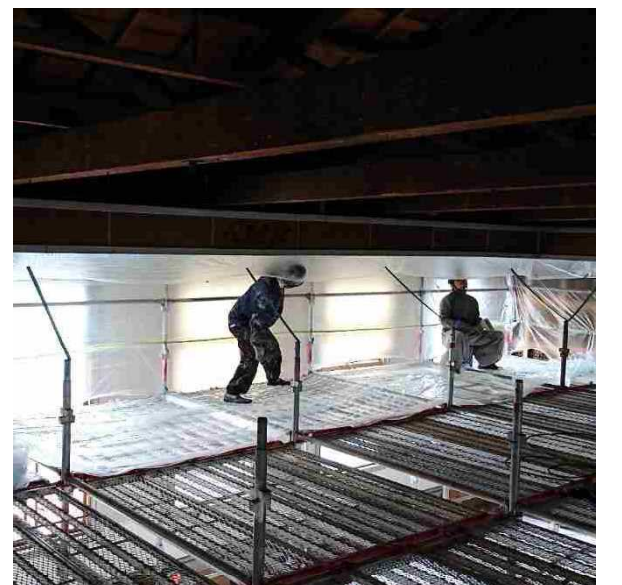
新設した1階西側の鉄骨梁は、旧加悦町役場庁舎屋内の雰囲気と調和するよう仕上げ工事に木材を用いました



改造の上、腐朽と蟻害が最も著しかった1階北西角の居室。物置から、救護室にも活用できる和室に生まれ変わりました



大津壁（クリーム色の漆喰壁）に復原するための工程。調査で、旧議場室内の壁のみ大津壁であったことが分かりました



折り上げ天井（2階旧議場）の漆喰塗りの修理。この部分は、内壁の大津壁と異なり、当初から白色の漆喰塗りでした



耐震補強のため、1階西側に新設した鉄骨の梁とそれを支える柱。2階旧議場と廊下との間の内壁の真下の位置にあたります。地震時に屋根や2階の荷重を地盤に伝達するだけでなく、建物の全体のねじれを防ぐ働きもします



上／壁内部への雨水の侵入が原因で、腐朽や傷みが著しく危険な状態であった車寄せ。手前の木材は、修理中の倒壊を防ぐための仮設材です 下／新設した柱に付く袖壁。耐震対策の一つとして、柔剛性がある荒壁（土壁）パネルを張りました



上／耐震補強の工事中。この後、1階北側居室部分には荒壁パネル、方杖が付く柱には添木を設けました 左下／2階南側居室。事務室とするため、クロスを張り、当初の砂擦壁の養生としました 右下／仕上げ前の車寄せ。仮設材が外れました



上／耐震補強で新設した鉄骨梁・柱・袖壁の仕上げ工事。既存のものと調和するように木と漆喰で仕上げました 左下／方杖が付く柱の折損を防ぐため、添木で補強しました 右下／屋外に接する窓の製作。上げ下げ窓から両開き窓に復原しました

蘇る建築当初の雰囲気

仕上げ工事が進むにつれ、室の雰囲気が大きく向上しました



旧議場の大津壁の復元。室内の壁面がクリーム色となり、灰色に塗装された木部とのコントラストが蘇りました



既存の建具にも、建築当初の建具の色味に合わせて調合した塗料を上塗りし、丁寧に仕上げました



外壁はスタッコ塗（海綿タタキ）。藁で凹凸模様を表現し、技と手間が必要ですが、独特の素材感や重厚感が生まれます



既存窓枠の仕上げ塗装のため、窓枠際のガラス部分を養生しました。ガラスも当時のものが多く、丁寧に作業しました



外壁のひび割れ修理。軟らかな金網を用いた鉄網混凝土であったため、外壁モルタルのひび割れは予測よりも軽度でした



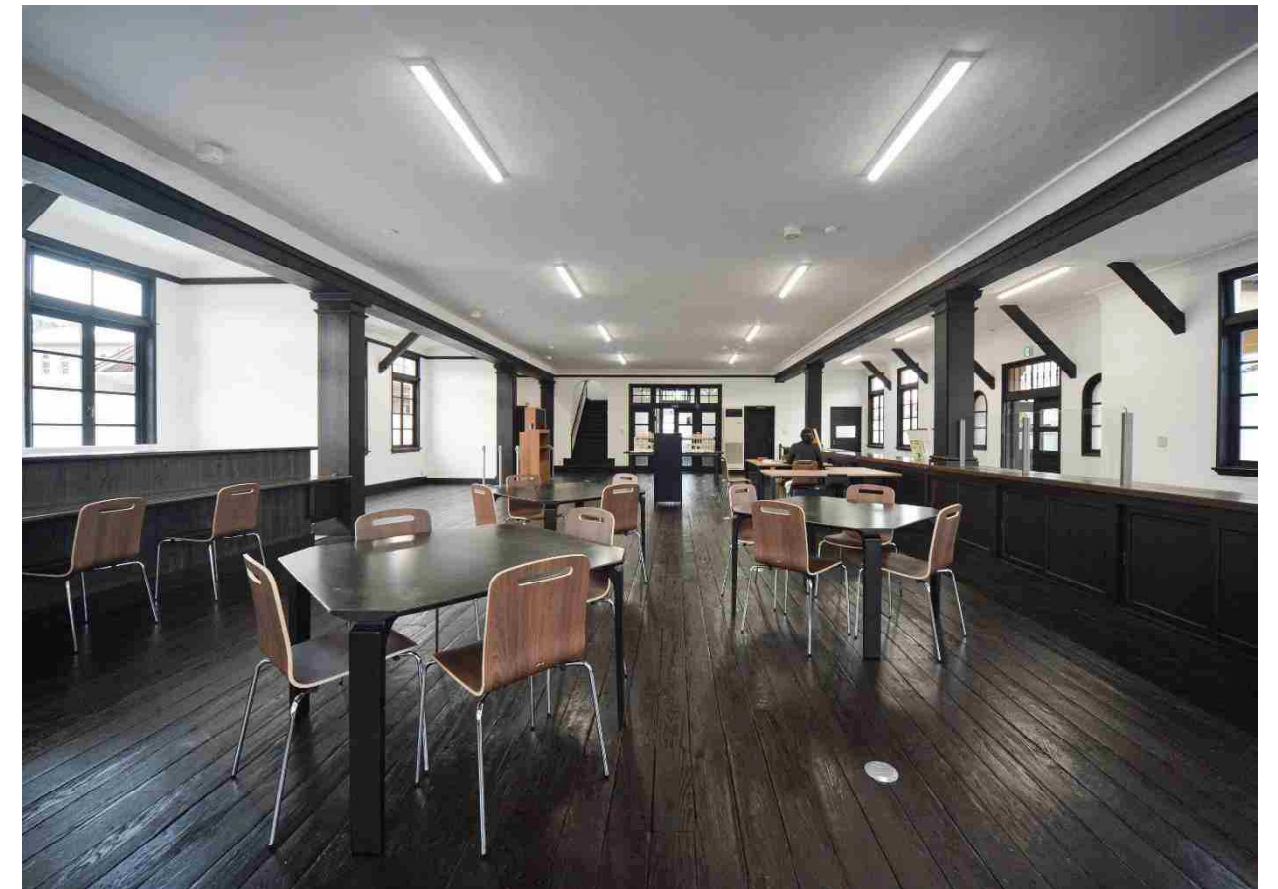
上げ下げ窓に変更されていた窓を、当初の両開き窓に復元。既存のガラスは慎重に取り外し、可能な限り再利用しました



改変で複雑に入り込んでいた配線と配管を、今回の工事で整理しました。電灯盤などは北西角の居室に集中配置しました



大屋根は2006年の葺き替えで健全な状態でした。換気棟の積層木材で造られた窓枠は、雨漏りの恐れがあり修理しました



上／修理後の1階屋内。受付カウンター正面の腰板は当初のベニア（塩地の合板）です。混同されがちなラワン合板と比べ、当時の価格差が3倍以上ある高価な材でした 下／修理後の外観。外壁の大部分が当初のスタッコ塗で文化財的に貴重です



1階屋内デザインの一部となっている当初の方杖。被災経験から、耐震対策に設けられました。柱との緊結力が強く、地震時に柱が先に折損する恐れがあり、接合を緩める案も出ましたが、緊結力は保ち、添木で柱を補強する方法を採りました



2020年2月、寄贈式での生徒と山添町長。京都府立宮津高等学校建築科の2019年・2020年3月卒業の3年生に、それぞれ修理前と耐震・修理後の構造模型を製作・寄贈いただきました

お世話になった方々

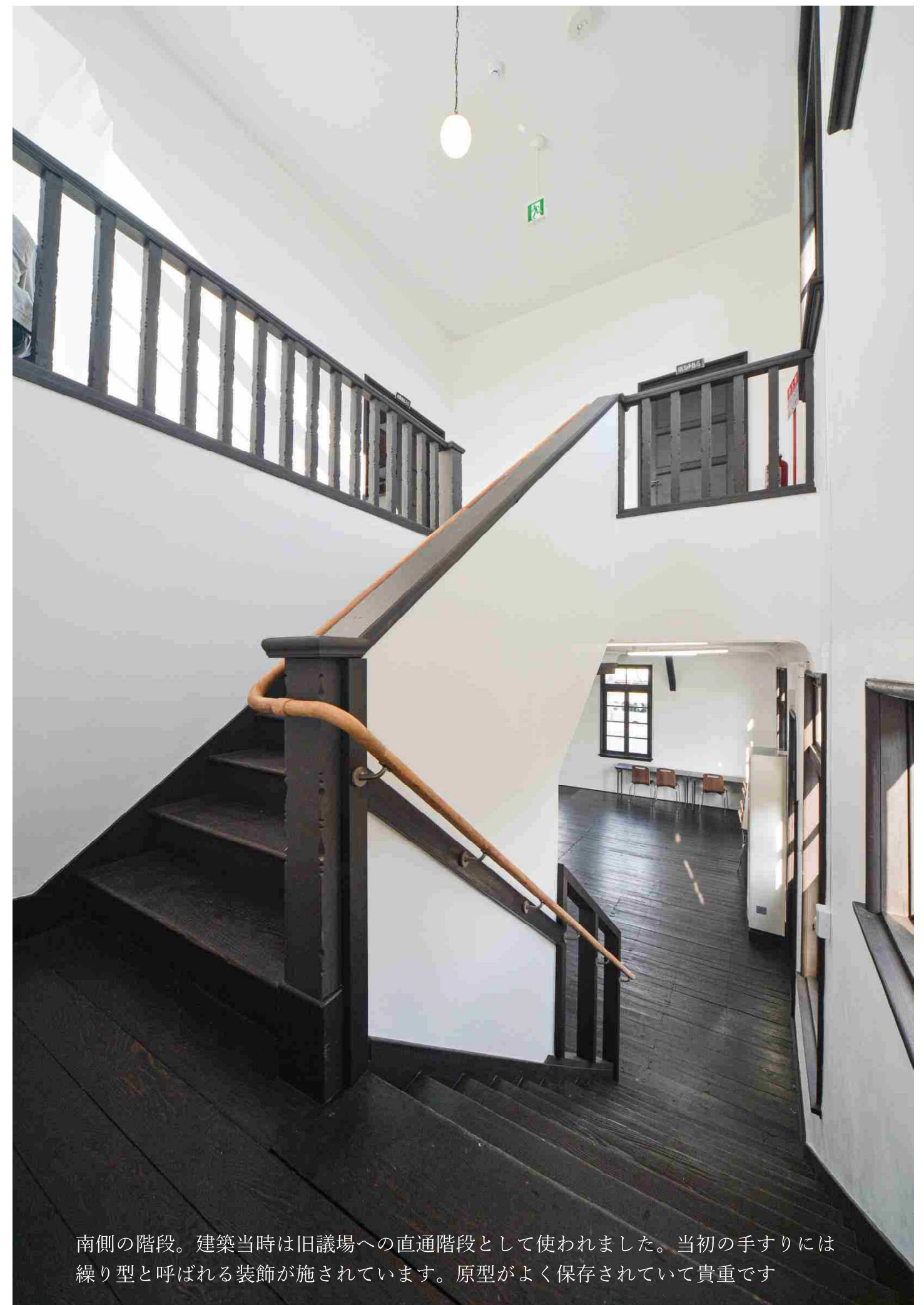
- ◇耐震改修検討委員会 委員・オブザーバー
 - ・鈴木祥之氏（立命館大学衣笠総合研究機構 歴史都市防災研究所・教授）
 - ・後藤正美氏（金沢工業大学環境・建築学部 建築系建築学科・教授）
 - ・大場修氏（京都府立大学生命環境科学研究科環境科学専攻・教授）
 - ・浦憲親氏（金沢工業大学・名誉教授）
 - ・藤井義久氏（京都大学農学研究科 森林科学専攻・教授）
 - ・中治弘行氏（公立鳥取環境大学 環境学部環境学科・教授）
 - ・大窪健之氏（立命館大学理工学部 都市システム工学科・教授）
 - ・吉富信太氏（立命館大学理工学部 建築都市デザイン学科・教授）
 - ・須田達氏（金沢工業大学環境・建築学部 建築学科・准教授）
 - ・大岡優氏（都城工業高等専門学校 建築学科・准教授）
 - ・向坊恭介氏（鳥取大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻・助教）
 - ・佐藤英佑氏（立命館大学衣笠総合研究機構・研究員）
 - ・藤原裕子氏（京都大学農学研究科 森林科学専攻・研究員）
 - ・金度源氏（立命館大学衣笠総合研究機構 歴史都市防災研究所・准教授）
 - ・佐々木貴昭氏（海の京都ちりめん街道実践者会議・会長）
 - ・上山高平氏（ちりめん街道を守り育てる会・会長）
 - ・堀江弘彦氏（前加悦区長）
 - ・小野泰昭氏（与謝野町文化財保護委員会・会長）
 - ・奥田辰雄氏（木四郎建築設計室・主宰）
 - ・岩田信一氏（榊中村設計北京都設計室・室長）
 - ・浪江良一氏（一級建築士事務所 浪江建築事務所）
- ◇与謝野町加悦伝統的建造物群保存地区保存審議会
- ◇海の京都与謝野町ちりめん街道実践者会議
- ◇よさの作事組
- ◇山本勝己氏（山本左官工業・代表取締役 京都府左官業組合連合会・相談役）
- ◇京都府立宮津高等学校・京都府立宮津天橋高等学校・建築科
- ◇文化庁文化財第二課伝統的建造物群部門
- ◇京都府教育庁指導部文化財保護課
- ◇京都府建設交通部建築指導課・丹後土木事務所
- ◇岐阜県中津川市加子母総合事務所・NPOかしもむら
- ◇岡山県倉敷市教育委員会生涯学習部文化財保護課
- ◇岡山県倉敷市文化産業部文化観光部観光課

保存活用改修工事

事業概要

- ・ 名 称 旧加悦町役場庁舎保存活用改修工事
- ・ 事業主体 与謝野町
- ・ 着工年月日 2019年 7 月17日
- ・ 竣工年月日 2020年 3 月19日
- ・ 施工場所 京都府与謝郡与謝野町字加悦1060番地
- ・ 設計施工 株式会社中村設計（設計監理）
宋徳建設株式会社（建築工事）
株式会社橋本電気商会（電気設備工事）
株式会社山田電気商会（機械設備工事）
- ・ 事業費 調査・工事費
総額110,347千円

発行：与謝野町（2021年 1 月）



南側の階段。建築当時は旧議場への直通階段として使われました。当初の手すりには
縋り型と呼ばれる装飾が施されています。原型がよく保存されていて貴重です



南面の出入口。凝った意匠は、洋風建造物の雰囲気をよく表しています。ちりめん街道への敬意が込められているとも言われています。外壁のモルタルは、耐火の目的もありました